

第3学年3組社会科学学習指導案

平成18年10月13日(金)第5校時

指導者 上山小学校 教諭 高橋 宏昌

1 単元名 「ものづくりにはげむ人たち～かまぼこ工場をたずねて～」

2 単元の目標

かまぼこの生産や販売の様子を調べることを通して、お客さんが安心して新鮮でおいしいかまぼこを食べることができるようにするための工場側の工夫や努力について考えることができる。

3 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
かまぼこの生産や販売の仕事に関心をもち、意欲的に調べ、考えながら追求している。新潟市の他の生産や販売に関する人々の仕事に対しても、関心をもちることができる。	かまぼこの生産や販売の仕事について問題意識をもち、見通しをもって、追求・解決している。安全でおいしいかまぼこを作るためのさまざまな工夫について、考えることができる。	安全でおいしいかまぼこを作る工夫をかまぼこ工場の見学や資料の読み取り等を通して、調べることができる。調べて分かったことや自分の考えを表現することができる。	新潟市や聖籠町にはかまぼこの生産や販売に関する仕事があり、わたしたちの生活とむすびつきがあることが分かる。かまぼこの生産や販売に見られる仕事の特色や国内外の他地域との関わり等について理解することができる。

4 単元と児童

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領3学年及び第4学年の内容(2)のア、イを受けて、設定した。

<p>(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり、調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。</p> <p>ア 地域には、生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。</p> <p>イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内他地域などとのかかわり</p>
--

新潟市や隣町の聖籠町にはかまぼこ製造会社が9カ所ある。また、それに伴い、多くの製造工場も存在し、かまぼこの生産が盛んな地域である。新潟市に物を生産・販

売する仕事は数多く存在するが、かまぼこ作りは新潟市の代表的な産業の一つと考えられる。

新潟市では、江戸時代からスケトウダラを原料にかまぼこを作っていた。しかし、昭和20年頃までは原料の鮮度が悪く、また、弾力も弱く製品としては下等であったという。しかし、その後、製品開発を重ねたり、原料入手の方法や製造工程等を工夫したりして、現在に至っている。なお、かに風味かまぼこの生産量は全国1位を誇っている。

近年かまぼこ製品の消費量、生産量ともに減少傾向であるが、かまぼこ業界では、上記の工夫はもとより、すぐれた栄養価のデータをもとにかまぼこ製品のおいしさと健康性を消費者にアピールする努力もしている。

そこで、本単元では、見学が可能なかまぼこ工場での見学・調べ活動を通して、おいしく安全なかまぼこを製造・販売するための人々の工夫について考えさせていきたい。

しかし、まだ、本学級の児童は、校区の様子を学習し始めたばかりであり、校区に工場がないことを考えると、新潟市にかまぼこ製品を製造する工場があることを気付いている児童は非常に少ないことが予想される。そのため、まず、かまぼこ製品に関心をもたせ、自分たちの住む新潟市で生産されている事実を目を向けさせていきたい。

そして、それをきっかけにかまぼこ工場を見学したいという問題意識を醸成して、学習問題を解決する学習へと取り組ませていきたい。

(2) 児童について

児童の実態（男子18名、女子18名 計36名）

社会科の学習についてのアンケートを実施したところ、次のようになった。

「社会科が好き」42%、「どちらともいえない」53%、「社会科が嫌い」5%。

好きな理由として、「分からない疑問が分かるようになるから」「校区探検が楽しかったから」「調べることがおもしろいから」等を挙げていた。また、嫌いな理由として、「質問することが苦手だから」「校区探検が暑くて大変だから」を挙げた。「どちらともいえない」を選択した理由として、「探検は楽しいが、ノートに書くのがいやだった。」「見学が大変だから」等を挙げていた。

このアンケートから、社会科嫌いは少なく、特に探検や見学等の調べ活動やポスター等に学習のまとめをする活動を好む児童が多いことが分かった。しかし、校区探検は長距離を歩いたため、調べ活動は大変だったという思いをもつ子が多いようだ。

1学期前半に初めて社会科で「学校の東西南北のようす」について学習した際には、見学や調査活動に楽しく取り組む姿が見られた。見学前に見る観点を確認し、観点毎に記入できるカードを持たせたので、ほとんどの児童は、発見したことを数多く記入することができた。また、調べ活動でグループ別に校区探検したときは、事前にリハーサルした成果を発揮し、言葉遣いに気を付けて、地域の人々に質問をすることができていた。

また、学習中に分からない言葉が出てきた場合は、国語辞典を活用して用語の意味を調べることができる。

しかし、課題がいくつか見つかった。まず1つ目は、見学時に発見したことや分かったことを見やすく記述できていないことである。雑な文字でただ記述する例が目についた。これは、カードの記述の指導が不十分であったためと考えている。

2つ目は、発見した事実からどんなことが分かるのか考え出すことがなかなかできなかったことである。事実同士を比較したり、関連付けさせたりする学習場面を意図的に取り入れるとよかったのではないかと考えている

全国標準教研式学力検査（NRT）からみた新潟市内児童の実態分析

平成18年度新潟市内児童の5年生社会科の偏差値平均は52.4%であり、どの領域においても全国の通過率を上回っている。6年生社会科の偏差値平均は50.5%で、ほぼ全国平均の学力とみることができ、**「通信と国民生活」**の分野において全国の通過率を下回っている。（全国比97）

5年生・6年生の正答率で全国平均が60%を下回っている問題や新潟市で全国平均下回っている問題を含む主な領域は以下の通りである。

5年生

【第1部—水の利用と水源の確保】

【第2部—地図から読み取る昔の開発、資料から考える昔の開発】

【第3部—地図記号を通して町を知る、地図を見て土地の様子を知る】

6年生

【第1部—日本の農業、農業生産を高める工夫と自給、日本の水産業】

【第2部—資料から読み取る工業のようす、日本の工業地帯の特色】

【第3部—情報伝達手段の発達と情報の活用、発達する情報機器とその利用】

【第4部—日本の周りの国や海と気候の特色、公害問題や環境を守る活動】

以上の問題の内容を分析すると、次のような児童の実態と問題点が明らかになった。

- ・用語の意味や見学先、または教科書等で身に付けるべき知識が定着していない。
- ・地図やグラフ等の資料の見方が身につけていない。
- ・複数の資料やグラフを関連付けてみるのが苦手である。
- ・資料などから事実を捉えることができても、その事実から分かることを見い出せていない。あるいは、意味を解釈できていない。
- ・学習した事柄を生活へ応用できていない。

5 指導の構想

本単元では、本学級の児童が で述べた課題と で明らかにした問題点を克服し、社会科の学力を向上させていくことができるように、次の視点で授業改善を行う。

(1) 強い問題意識の醸成

学力を向上させていくためには、単元を通して児童が前向きに学習に取り組むことが必要と考える。それを支えるのは、どうしてもこの問題を解決したいという強い問題意識である。そのためには、新潟市でかまぼこ製品が作られているという意

識が少ない児童に、かまぼこに対する関心をもたせなければならない。そこで、かまぼこ製品を提示して産地を当てたり、原料を考えさせたりすることから学習を始めたい。

関心をもった後は、原料となる魚をどこで手に入れているのか考えさせていく。その後、海外から運んで来ていることを伝え、日本海が近くにあるのに、どうしてわざわざ外国の海でとった魚を原料にしているのか予想を立てて調べる計画を立てさせていきたい。

(2) 見学先で得た情報の確実な定着

児童の実態から、見学の結果、分かったことを見やすく記述させる必要がある。

そこで、見学用のカードは調べる項目毎にマス目で仕切ったものを準備し、そこへ箇条書きで記入させていくことにする。これまではただ横罫線を引いたカードを与えていた反省に基づくものである。

また、NRTの分析結果から、見学で獲得した知識を確実に定着させる必要がある。そこで、見学後に獲得した知識をカードを基にジグソーメソッドの手法で発表させる。ジグソーメソッドとは、グループで自分の獲得した情報を発表したり、グループのメンバーから教えてもらって新たに獲得した情報を一人ずつ他のグループで紹介して、皆の情報量を増やしていく手法である。

その後、このようにして獲得した知識もとに家庭学習で問題作りをさせる。そして、学級活動の時間を活用してかまぼこクイズ大会を行い皆で知識をさらに共有できるようにしていきたい。

なお、見学時に聞いた用語で分からないものがあつた場合は、国語辞典を活用して調べさせていく。

(3) グラフ等の資料を読み取る学習場面の意図的な設定

NRTの分析結果から、「高学年の児童において、地図やグラフ等の資料の見方が身に付いていない」ことが明らかになった。近年の教科書は資料として、写真を掲載する割合が60%を超え、逆に統計地図やグラフの割合は10%を切っている。この数値から、3年生の授業から意図的に地図やグラフを活用しないと、それらの読み取り能力を向上させることは困難だと考えられる。

そこで、本単元ではかまぼこ製造工場の位置や原料の入手先を地図に表したり、かまぼこ製品の生産量、1世帯当たりのかまぼこの支出金等を棒グラフに表して提示したい。なお、グラフの読み取り方の指導は、指導時数の重点化を図る目的で、朝のドリルタイム(15分間×2)を活用して行う。

(4) 思考を生む学習場面の設定

NRTの分析結果から、これまでの学習で獲得した知識を結び付けたり、その知識と資料を読み取って分かったことを関連付けて考える項目の正答率が全国的に低いことが明らかになった。

これは、日々行う授業において、事象を関連付けて思考するという場面を取り入

れることが少ないことを示している。従って、児童が意図的に事象を関連付けて思考する場面を設定しなければ、社会科の学力向上は望めない。社会科入門期の3年生の段階から、意図的に指導していく必要があるといえる。

そこで、本単元では、グラフから分かることとかまぼこ工場の見学で獲得した知識や自分の経験から分かることを関連付けて考えさせていく。また、かまぼこ工場で行っている工夫の意味やそれを取りいれると良い理由(価値)などを考えさせていく。このような手だてを取ることで、思考する場面を生み出していく。

6 指導と評価の計画(全17時間)

時間	ねらい ・主な学習活動	評価基準(B) 【評価方法】	評価の観点				判断基準	
			関心	思考	技能	知識	十分満足できる(A)	努力を要する(C)への指導
1 2	かまぼこ製品に関心をもつことができる。 ・かまぼこ製品の包装や電話帳,工場分布図で製造場所を調べる。 ・かまぼこの起源を理解する。 ・試食をして感想を発表する。	・かまぼこ工場の数や位置を調べたり,試食をした感想を書いている。 【ノート記述】 ・かまぼこの起源が分かる。 【ノート記述】					(Bに加え) ・電話帳の工場を地図上で確かめている。 ・新潟かまぼこの特徴が分かる。	・拡大地図に工場の名前を貼り,視覚に訴える。 ・資料に線を引かせ,要点を目立たせる。
3	かまぼこ工場見学の意欲を高めることができる。 ・かまぼこの作り方や工場内の部屋に対して疑問をもち,それに対する予想を立てる。	・疑問点を3つ記述することができる。 【ノート記述】 ・自分なりの予想を立てることができる。 【ノート記述】					(Bに加え) ・根拠を明らかにして疑問点や予想を記述している。	・工場配置図の部屋を指し,何をすすめる所か考えさせる。 ・どうにかまぼこを食べたいか発言させる。
4 5	工場見学の計画を立てることができる。 ・見学したり,質問したりする観点を	・見学すること,質問することを記述する。 【見学カード記述】					(Bに加え) ・それぞれ3つ以上記述している。	・前時の疑問をもとにさせる。

	<p>明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことを記述する方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードの記述の仕方が分かる。 <p>【見学カード記述】</p>					<ul style="list-style-type: none"> ・見やすい字で記述している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大したカードに例を書いてみせる。
6 7 8 9	<p>工場の見学をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画にしたがって、見学したり、質問したりする。 ・必要なことをしっかりメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで質問したり、必要なことをメモしている。 <p>【見学の様子】</p> <p>【見学カード記述】</p>					<p>(Bに加え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目毎に見やすく記述している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大事な話の際は、時間を取って、メモさせる。 ・メモする言葉のヒントを与える。
10 11	<p>見学して分かったことや残った疑問 新たな疑問等を整理することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別に分類する。 ・グループで発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かったことと疑問点をはっきりさせている。 <p>【プリント記述】</p>					<p>(Bに加え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな疑問点をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を参考に、見逃し、聞き逃しがあれば、付け足しをさせる。
12 13	<p>残った疑問や新たな疑問を調べることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料活用や工場へのFAXでの問い合わせ等で調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や工場からの返答等を活用して疑問点を調べ、解決している。 <p>【調べの様子】</p> <p>【プリント記述】</p>					<p>(Bに加え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料を用いて調べている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問解決に必要な資料の部分に線を引かせる。
14 本 時	<p>お客さんが安心して新鮮でおいしいかまぼこを食べることができるようにするための工夫についてを考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫の意味を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしく安心して食べられるかまぼこを作るための工夫とそのよさについて考え、それを分かりやすく記述している。 <p>【ノート記述】</p>					<p>(Bに加え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の工夫について、そのよさとともに記述している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントや友達の発言を参考して、文章化させていく。

15 ・ 16	<p>分かったことや考えたこと等をまとめる方法を考え、表現することができる。</p> <p>・自分の表現方法でまとめる。</p>	<p>・自分の決めた方法で学習のまとめを記述している。</p> <p>【まとめを記述した作品】</p>				<p>(B に加え)</p> <p>・調べて分かったことだけでなく、自分の考えたことを記述している。</p>	<p>・これまでのまとめ方を思い出せ、どの表現方法を取るか相談する。</p> <p>・どこに何を記述していくか相談して決める。</p>
17	<p>かまぼこ以外の新潟市の主な生産品を調べる。</p> <p>・本や資料集等で主な生産品を調べる。</p>	<p>・新潟市の主な生産品を3つ探し出している。</p>				<p>(B に加え)</p> <p>・見つけた生産品の特徴を簡単に説明できる。</p>	<p>・本や資料集の関係するページを提示する。</p>

7 本時の学習

(1) 本時のねらい (指導全 17 時間 本時 14 時間目)

かまぼこ工場が、お客さんが安心して新鮮でおいしいかまぼこを食べることができるようにするためにやっている工夫について考えることができる。

(2) 本時の評価規準

・「思考・判断」 かまぼこ工場が行っている工夫について、それを取り入れるよさを明らかにして記述している。

(3) 本時の指導の構想

前時には、これまで調べて分かったことを、「かまぼこ製品の作り方」「工場内の部屋の役割」「工場働く人のようす」の観点別に分けて発表させた。また、発表内容は、教師が模造紙に観点毎に記述し、教室に掲示してある。

本時においては、ねらいを達成するため、以下の手だてをとっていく。

グラフの読み取りと生活経験を結びつけて考えさせることで、工夫の意味を共通理解する。

児童は、これまでの社会科の学習を含め、他の教科の学習においても、工夫という用語の意味を学習してきていない。したがって、本時のねらいに迫るためには、「工夫」の意味を共通に理解する必要がある。

そこで、かまぼこの生産量が12月に多い訳を考えさせることで用語の意味を捉

えさせていく。児童は自己の生活経験や12月という時期をもとに予想を立てるであろう。その後、1世帯当たりのかまぼこ支出金額のグラフを提示する。このグラフはから、1月から11月まではほぼ同じ金額を支出しているが、12月だけは約4倍もの金額を支出していることを捉えさせる。この事実と12月に生産量が多い訳を結びつけて、年末年始に需要が増えるため、生産量を増やしていることに気付かせていく。そして、かまぼこ工場が買う人の立場になって考えて、よい方法を考え出していることを工夫という言葉で押さえる。

社会科の学習でグラフを扱う経験が少ないので、グラフの構成も確認しながら授業を進める。なお、グラフは学習経験に合わせて棒グラフとする。

「調べて分かったことカード」や「見学カード」等をもとに、工夫とそれを取り入れる理由を考えさせ、記述させる。

前時に学習した観点別の情報は、児童用にも同様の物（調べて分かったことカード）を準備し配付する。そして、これと自分の見学カード等をもとに工夫について考えさせる。考えたことはプリントに箇条書きで記述させていく。プリントには、工夫とその工夫を取り入れる理由について記述する欄を設ける。

なお、机間指導時に記述内容を確認しておく。そして、全体発表の場で意図的に指名する際に役立てていく。

事例や根拠を挙げながら、かまぼこ工場の工夫を説明する文を記述させる。

友達の発言を聞いて、自分では気付いていない工夫や理由に気付く児童も出てくることが予想される。また、いろいろな意見が結びつけられて話し合いが行われるので、始めにプリントに記述した事柄だけでは、工夫や理由についての説明が不十分になる児童が出てくることが予想される。

そこで、学習のまとめとして、かまぼこ工場が行っている工夫とその工夫を取り入れる理由や価値を説明する文章を記述させていく。なお、これから、自分の考えをまとめていく学習に慣れさせていくために、記述の仕方に条件を与える。与える条件は、「書き出しを指定すること」「事例を紹介すること」「工夫や努力を行う理由を説明すること」の3つである。具体的には、書き出しは「かまぼこ工場です。」に指定し、「たとえば、」「それを取り入れるのは～だからです。」などの言葉を用いるよう指示を出す。

前時までの調べ学習や情報交換により、児童が獲得している知識

- 主にかまぼこ製品の作り方を解決する調べ学習から
- ・原料は、日本近海だけでなく、オホーツク海、ベーリング海など北方の海や外国の海で捕れた魚の白身を原料にしている。魚は買っている。
 - ・捕れた魚はすぐに冷凍すり身にしている。
 - ・かまぼこは、蒸す、焼く、ゆでる、あげる等の作り方によって、製品の種類が違って来る。大きく分けると4種類ある。

- ・作る製品毎に加熱したり，冷却したりする生産ラインが決まっています，ベルトコンベアーなどの機械を使っています。
- ・現在作っている製品で最も多いのは，かに風味かまぼこである。
- ・かまぼこ1つを作るためには，スケトウダラが2匹必要。
主に工場配置図を見て抱いた疑問を解決する調べ学習から
- ・シャワー室では，空気で体についたほこりや髪の毛をとばしている。
- ・クリーンルームは，原料を包む場所で，手術室みたいにきれいだ。
- ・工場内に入る時は，必ず服や長靴をきれいにする所を通るようになっている。
- ・開発室では，商品の研究をしている。
- ・物流管理室では，かまぼこを作る量を決めたり，原料を注文したりしている。
- ・必ず人がいて，商品のチェックをしている。
- ・電算室はいろいろなデータをチェックしているところ。
主に仕事している人の見学や工場での聞き取りから
- ・手をアルコールで消毒したり，長靴を塩素で殺菌したりしている。
- ・ぼうしの下にはネットが付いている。
- ・研究せんもんの仕事の人がいる。
- ・24時間機械が動いていることもある。
- ・お客様のきぼうを聞いて，商品を考えることもある。
- ・味見もしている。
- ・出来上がった品物は，日本全国だけでなく，外国へも送られている。

(4) 本時の展開と評価 (別紙)

(4) 本時の展開と評価

学習内容・活動	主な教師の働きかけと児童の反応	指導上の留意点と 評価
<p>かまぼこ工場で行っていることの意味を理解する。(用語の共通認識)</p> <p>・12月に生産量を増やしている理由を1世帯当たりの支出金額のグラフ等と関連付けて考える。 (15分)</p>	<p>「堀川かまぼこ」で、一番多くかまぼこを作っているのは12月だそうです。なぜ12月が多いのでしょうか。</p> <p>C 寒いからかな。でも、1月や2月の方がもっと寒いと思うけれど。 C 12月にかまぼこを買う額が高いから。 C おせち料理に使うからだ。 C かまぼこ工場も考えているなあ。 C 欲しい時にたくさんあると買う人は助かる。</p> <p>このように、かまぼこ工場が買う人の立場になっているのと考えて、作る量を増やすようにしていることを工夫といいます。</p>	<p>かまぼこの1世帯当たりの支出金額のグラフを提示し、12月に多くのお金を使っていることをつかませる。 年末年始の家庭の様子を想起させる。</p> <p>グラフから分かることと友達の発言等を結びつけて、12月に多い理由を考えることができる。【発表の様子】</p> <p>工夫による価値(そのよさ)も考えさせていく。</p>
<p>かまぼこ工場で行っている工夫を考える。 (13分)</p>	<p>かまぼこ工場では、作る量を変えることのほかにどんなことが工夫をしていることと言えるでしょう。これまで学習したことをもとに考えてみましょう。</p> <p>C 新鮮な原料を使っていることに関する工夫 ・とれた魚はすぐに船の上で冷とうすり身にすること。 ・わざわざ外国まで魚を買いに行くこと。 ・原料を冷とうして保かんでいること。 ・冷きやく室がいくつもあること。 理由：新鮮な原料で作るとおいしいから</p> <p>C 衛生に気を使っていることに関する工夫 ・エアシャワーで体についたほこりやかみの毛をとばしていること。 ・服や長ぐつをきれいにしていること。 ・ぼうしの下にネットまでしていること。 ・しょうどくをしっかりとっていること。 理由：安全な品物作りができるから</p> <p>C 味の研究に関する工夫 ・開発室では、商品の研究をしていること。 ・新しい商品を作っていること。 ・研究専門の仕事をする人がいること。 ・お客さんのきぼうを聞いていること。 理由：おいしい品物は喜ばれるから</p> <p>C 検査を行うことに関する工夫 ・1回でなく、何回も検査行っていること。 ・機械だけにたよらず、必ず人間が検査をしていること。 ・味見までしていること。 理由：安全な品物作りができるから。</p>	<p>かまぼこ工場で行っている工夫について、それを取り入れる理由を明らかにして、記述している。 【プリントの記述】</p> <p>なかなか工夫に気がつくことができない児童には、工場で行っていることや工場にある場所で大事だと思うことや場所を理由とともに記述させるよう指示を出す。</p> <p>理由が記述できない児童には、工夫を取り入れるとどんないいことがあるのか考えさせる。</p> <p>シートを1枚書き終えたら、2枚、3枚と記述させていく。 箇条書きにさせる。</p>
<p>かまぼこ工場で行っている工夫を発表する。 (10分)</p>	<p>かまぼこ工場では、どんな工夫をしていますか。自分の考えを発表してください。</p>	<p>発表の仕方を説明する。</p>

かまぼこ工場の工夫を説明する文を記述する。
(7分)

- C わたしは、服や長ぐつをきれいにすることとしょうどくをしっかりしていることから、えいせいに気をつけていることが工夫だと考えました。こうすると、ばいきんが入らず、安全な品物を作ることができます。
- C ぼくは、新せんな原料を使っていることが工夫だと思います。なぜかという、とれた魚はすぐに冷とうすり身になっているし、工場では、原料をわざわざ冷とうして保かんでいるからです。新鮮な魚を使うとおいしいかまぼこを作ることができると思いました。
- C わたしは、おいしさを研究していることが工夫だと思います。それは、お客さんに喜ばれる味にするためにやっているし、研究専門の人までいるからです。これをするので、おいしい品物を作ることができます。
- C ぼくは、検査をしていることが工夫だと思います。それは安全な品物を作ろうとしていることになるからです。その方がお客さんも安心します。

(児童の発表が終わった後に)かまぼこ工場では、どんな工夫をしているのですか。説明する文を書きましょう。

- C かまぼこ工場ですることは、新せんな原料を使うことです。なぜかと言うと、原料の魚はすぐにすり身にして冷とうしているし、工場でも冷とう保管しているからです。このようにするのは、おいしいかまぼこが作れるからです。
- C かまぼこ工場ですることは、えいせいめんにつけていることです。例えば、工場に入る前に、エアシャワーをあびたり、長ぐつのうらも薬でしょうどくしたりしています。これは、かまぼこにばいきんなどが入らないようにするためです。こうすると、安全な品物ができます。
- C かまぼこ工場ですることは、商品開発室で味の研究をしていることです。そのために、研究せんもんの仕事をする人たちがいます。どうして、こういうことをしているかという、おいしい味を見つけて、お客さんによるこんで食べてもらえるようにするためです。
- C かまぼこ工場ですることは、検査をしっかりすることです。例えば、生産ラインには必ず人がいて、品物がおかしくないか見えています。また、品物を送る前にも、検査して、何回もやっています。なぜ検査をするかという、安全な品物を届けられるようにするためです。

根拠を明らかにしながら、自分の考えを説明している。

【発表の様子】

根拠を明らかにしていない児童には、そう考えた理由を問う。また、その工夫の良いところも発表させる。

記述内容をあらかじめ見て、全体の場で発表させる児童を決めておく。(複数の視点から選ぶ)

関連した意見があれば、発言させる。

指定する条件を伝えた後に、ノートに記述させる。

- ・その工夫をする理由を書く。

友達の発言を参考にして、最終的に、かまぼこ工場が行っている工夫についてそれを取り入れるよさを明らかにしながら記述している。

【ノートへの記述】

なかなか書けない児童には、プリントに記述したことをつなげさせたり、友達が発表した通りに言わせたりして、文章化してみる。